

伊賀鉄道伊賀線の活性化をめざして

「公有民営化から5年」

伊賀鉄道伊賀線は、平成29年4月から市が線路や駅舎などの鉄道施設や車両を保有し、列車の運行や改札業務などを伊賀鉄道㈱が担う「公有民営方式」で運行しています。

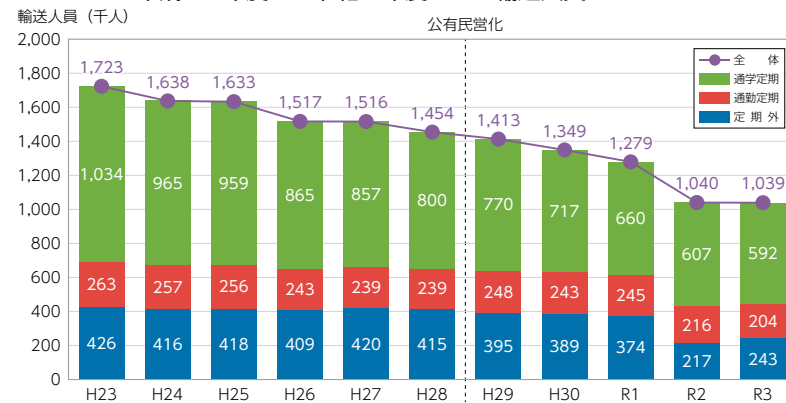
公有民営化から5年が経ち、これまでの利用状況や利用促進のための取り組みを振り返りながら、これからの伊賀線活性化のための取り組みを紹介します。



◆利用状況

少子高齢化や自動車の普及により伊賀線の輸送人員は減少傾向にあります。特に、新型コロナウイルス感染症の影響で、令和2年度以降は令和元年度に比べて利用者が年間約20万人減少しています。

平成23年度から令和3年度までの輸送人員のグラフ



利用者の内訳をみると、通学利用が半数以上を占め、市内外に通う学生には欠かせない移動手段となっています。

◆これまでの5年間

市と伊賀鉄道㈱は安全な輸送を第一に、利便性や安全性の向上のための取り組みを10年間の計画*に基づき進めています。

また、市では、通学利用者を支援するため令和2年度より通学定期券利用者を対象に定期券購入費の一部助成を行っています。

* 鉄道事業再構築実施計画のこと。公有民営化にあたり、市と伊賀鉄道㈱が策定した10年間の事業計画

5年間（平成29年～令和3年）の主な取り組みと出来事

- 新駅「四十九駅」の開業
- パーク＆ライド駐車場の整備（市部駅、丸山駅、比土駅）
- 車内のフリーWi-Fiサービスの導入
- 車内の抗菌・抗ウイルス加工の実施
- 伊賀鉄道の通学定期券購入費の助成
- 上野市駅に「忍者市駅」の愛称を付ける
- 「上野市駅舎」など4カ所の構造物が国登録有形文化財に登録

◆これからの5年間

これからも市民の皆さんに必要とされ、愛される鉄道であるために市と伊賀鉄道㈱はさまざまな取り組みを進めていきます。

「増収のための取り組みの継続」

伊賀鉄道㈱では、オリジナルグッズの販売やさまざまな広告掲出を行い、収益増加の取り組みを積極的に行っています。

また、地域のイベントや季節に合わせたイベント列車の運行、食や文化など地域の魅力に触れることができるイベントなども開催しています。

「ICカードシステムの導入」

今年度から近鉄大阪線やJR関西本線との乗り換えを便利にし、キャッシュレス化の推進などを図るため、交通系ICカードによる決済システムの導入を2カ年計画で進めます。



「高校生を対象としたモビリティマネジメント*の実施」

伊賀線の利用促進に向け、活動を通して高校生との関わりを強化していきます。



現在、伊賀白鳳高校工芸部の皆さんに茅町駅待合室に設置する木製ベンチの制作に取り組んでいただいています。

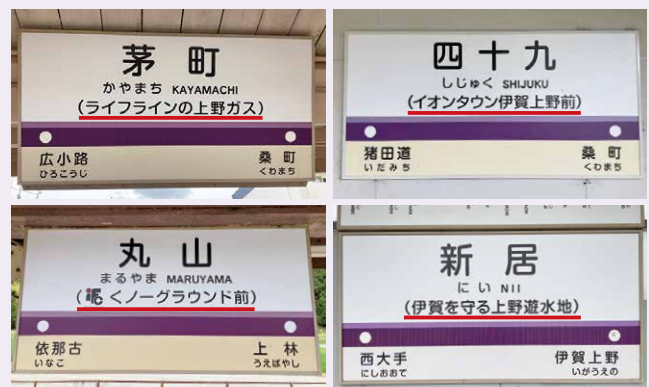
* 過度に自動車に頼る生活から公共交通などさまざまな交通手段を「かしこく」使う生活への自発的な転換を促す取り組み

「コロナ後を見据えた外国人旅行者の呼び込み強化」

コロナ禍により減少したインバウンド需要の回復を見据え、プロモーションの強化・案内表示などの多言語化を進めます。

◆駅のネーミングライツ（副駅名広告）

沿線企業などの知名度向上やイメージアップを図ることのできる副駅名広告を販売しています。6月1日現在、4駅に副駅名がついています。



ネーミングライツ（茅町駅、四十九駅、丸山駅、新居駅）

◆まくら木オーナー制度

令和元年度から寄附を募り、返礼として線路のまくら木に寄附者の名入りプレートを取り付ける取り組みを実施しています。令和4年度は251口、2,358,000円の寄附をいただきました。



まくら木オーナー制度（令和4年度は3グレードのプレートを提供）

◆いがてつマルシェ

忍者市（上野市）駅のホームに車両をとめ置き、車両やホームで、グッズや地場産品などを販売したり、運転体験をしたりと鉄道の魅力満載のイベントです。

【問い合わせ】
○ 交通政策課
TEL 22・9663
FAX 22・9694
E koutsuu@city.iga.lg.jp
○ 伊賀鉄道㈱
TEL 21・0863

